

補助金では持続不能

先日、ある大手企業の社長から興味深い話を聞いた。この会社は、LEDの照明からペットフードまで、さまざまな商品を開発製造して、ホームセンターなどで販売をしている。この会社が、コメの生産者と組んでコメの販売に参入するというのがだ。

詳しい話はよく分からなかったが、次のようなことらしい。ペットフードの世界では、真空包装などの技術が進んでおり、長期間新鮮な状態でのペットフードの管理が可能となっている。コメでもこの手法が使えればはずだというのが

伊藤 元重

機構教授 大東 隆雄 研究員 長 合 理事 総 理

だ。精米をしたコメをどうした技術で管理すれば、店で購入して使うとき、簡単に、新鮮な状態でのコメを食べることができるとい

う。この話を聞いて、私の頭に浮かんだのはシナジーという言葉である。シナジーとは経営学の用語であるが、異なったものが融合した

シナジーが農業を変える

り、ぶつかりあうことで、まったく新しい価値が生まれるということだ。大学で学生には、「経済でも経営でも、異質なものが交わることで、1足す1が3にも4にもなる。これをシナジー」と説明している。

ペットフードの製造販売のプロ

とコメ農家の連携は、まさにこのシナジーの典型的な事例である。異業種がコメのビジネスに参入することで、コメの生産者にもより大きなビジネス機会が提供される。そして何よりも、それで消費

者はより簡単に新鮮なコメを食べることができるようになるのだ。ペットフードのように小分けにし

価値生む異業種参入

てもうえればさらに便利である。長いこと、日本の農業は外部からの参入をシャットアウトしてきた。コメの流通は農協が支配し、コメの価格は政府が管理してきた。農業生産にも、減反という生産管理が続けられてきた。そして何百%という世界的にも異例な高

関税で、消費者には高いコメを買うことを強要してきたのだ。こうした仕組みが持続可能でないことは誰の目にも明らかだ。医療・介護・年金の費用が高齢化で膨れ上がっていく中で、ただでさえ財政が厳しいのに、これ以上農業補助にお金を回すことも難しい。農業の改革は日本にとって重大な課題である。

コメだけで売ったら高い収益をあげるのは難しいかもしれないが、それを加工すれば高い価値になっていく。どうしたらより高い価値を生み出すことができるか。それがシナジーの問題である。すでに、外食産業、小売業、食品メーカーなどが、積極的に農業に関わる姿勢を見せている。好ましい動きだと思ふ。地域性を重視した食文化ということになれば、観光とのシナジーも期待できるかもしれない。ヤマト運輸や航空会社のような物流ネットワークに関わる企業も、クール便を利用したアジアへの翌日配送に挑戦している。多様な業種が食の分野に関心を持ち、より多くのシナジーが生まれてくることを期待したい。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。